



～2011～2012年度プログラム～

337-D地区ガバナー

識 名 安 信

(八重山LC)

【国際会長テーマ】「I BELIEVE ～ 信じる」

国際会長 ウィンクン・タム (香港)

【地区スローガン】「^{いちぐう}一隅を照らす」

【ガバナーテーマ】「思いやりを形に」

【基本方針】

さて2011～2012年度国際会長テーマは「I BELIEVE ～ 信じる」との発表がありました。

地区内のライオンズクラブに、自らの信念を身を持って示す為、勇気を出して決意を固め行動を起こすように呼びかけ会員がもたらす力を信じ、自分たちの奉仕を拡大していくことの重要性を信じて必ず成功をさせようと述べています。

多くの課題の中から6点の目標が発表されました。

その中で100万本の植樹を基本とした環境保全やライオンズクエストをメインとした青少年健全育成は特に我々の取り組むべき重要課題だと確信をしています。

戦後の高度経済成長を経て物質本位の考え方となり人間らしい思いやりの心の喪失をもたらしました。

今日の我々の暮らしには物質的豊かさの一方で核家族化が進み心の潤いが失われ青少年犯罪の低年齢化、凶悪化、特に今回の震災での原発事故により地球環境問題の深刻化・・・

ライオンズクラブが不滅とするのならば避けては通ることの出来ない青少年健全育成、環境保全に心して末永く取り組むべき問題だと思います。

国際会長Lウィンクン・タムは**勇気、決断、行動**の三つのキーワードを掲げました。

そのテーマに呼応してガバナーテーマを「思いやりを形に」といたしました。

現代という社会の中で、飽食の豊かな物質文明の名の裏側で日々の食にもありつけない貧困社会があり、命を軽んじ、いとも簡単に他人の命を奪い、又様々な理由で心の病を抱え自殺する人が年

3 万数千人以上 10 年余に渡り続いている現状を鑑みた時にお互い一人ひとりが人を思いやることの大切さが最も必要な時代だと痛感する中で今回の震災の中で未曾有の出来事に、ただ単に驚愕し悲しみの淵に留まるのではなく**復興へ向けて決意を胸に秘め実際に行動を起こす勇気**が最も必要だと教えを頂き、テーマと致しました。

地区スローガンは「**一隅を照らす**」としました。

会員一人ひとりがお互いのポジションで奉仕の灯火を燃やし続けることが出来れば閉塞感漂う現状に多大なる光明を与えることが可能となると信じています。

その為にライオンズ、スピリッツの灯を絶やすことなく照らし続けて欲しいと念じています。

地区ガバナー方針を「**礼節を重んじ、人を尊び感謝の心を忘れず、地域社会に対しニーズに沿った奉仕活動を実践する**」ことを基本とし、永遠の課題である会員増強はさることながら会員の質を高め決して地域から遊離したライオンズクラブとならぬように留意して地区運営に努めたいと念じています。

【重点目標】

1、青少年健全育成への取り組み

地区の多くのクラブが未来を担う青少年の心身両面からの健全育成を積極的に展開されております。

ライオンズクエストプログラムを実践し鹿児島リジョンでのモデル校を立ち上げる為にワークショップは元より地区内でセミナーを強化すると共に、全日本的な活動である薬物乱用防止活動には一層積極的に取り組んで参りたいと思います。

2、環境保全への取り組み

今回の原発事故に学び地球環境問題はそのまま放置できる状況ではありません。

良好な環境を整えることは未来を託す青少年への我々の最大の責務であると考えます。

国際会長の推進する世界で 100 万本の植樹キャンペーンを達成する為に、鹿児島から沖縄までの広範囲のエリアにおいてマングローブ等を含めて地区内で 1000 本を目標としています。

その他、地区の現状に沿った環境問題に取り組み実践的な継続的奉仕活動を推進し、より一層的確な行動指針を環境保全委員会を中心に提案して参りたいと思います。

3、献眼、献血、献腎への取り組み

医療技術が発達しても三献事業は我々ライオンズクラブの主たる事業であり根幹を成すものであります。

今後もより一層、主力アクティビティとして実施して頂きたいと思います。

特に献眼事業に関しては全国の会員とアイバンク運動の輪を広げていく為に、アイバンク協会から指導を賜りながら日本アイバンク運動推進協議会と共同で、日本アイバンク運動推進協議会全国大会を開催予定(10 月下旬予定)しています。

4、会員増強への取り組み

会員増強は常にライオンズクラブにとり地域における奉仕活動の源泉となるものです。 会員増強なくして目覚しい奉仕活動は厳しいものがあると思います。

会員増強に取り組むには自分自身がライオンズクラブの会員である事に誇りを持つべきであり、その誇りは感動を覚えるアクティビティの実践から生まれるものなのです。

会員増強に対し何をなすべきかを互いに熟慮を重ねながら推進して参ります。

5、I T 化への取り組み

世界中の情報が I T により瞬時に世界を駆け巡る現代であります。

国際協会との連絡はもとより鹿児島 R、沖縄 R、の広範囲に於けるエリアで他クラブとの連絡は I T を駆使する事により時間が短縮され交通費等の軽減に繋がります。

I T というツールを活用し各クラブとキャビネットとの間をより身近なものにし、リジョン、ゾーン間の連絡をより緊密にしてキャビネット会議、特に各種委員会会議等、多くの会議を I T 化により一層促進し鹿児島、沖縄間の 680 キロの距離を取り除くために推進して参ります。

6、LCIF への取り組み

今回の LCIF の震災への迅速なる対応は誇りに思います。

社会経済が厳しい昨今ですが LCIF への理解を頂き LCIF への支援を強調する中で LCIF 交付金活用によるアクティビティを実践し、クラブ及び個人からの献金を推進して参りたいと思います。